

「陸奥」の会 史跡研修を支援

神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 大里3海佐）は、12月8日（火）、元統合幕僚長 齋藤隆氏の主催する「陸奥」の会に対する「海上自衛隊観音崎警備所研修」を支援した。

この「陸奥」の会は大正時代、横須賀海軍工廠で竣工した戦艦「陸奥」の主砲を横須賀に里帰りさせることを目的に活動しており、今回市内に残る旧軍施設の現況を確認する一環で同警備所を訪れた。参加者には横須賀防衛協会や郷土史家の方々など、横須賀に所縁のある各氏が集まった。

同警備所内には明治期の砲台跡、昭和期の聴測所跡が残り、現在も礼式で使用する礼砲も配備されている。参加者は普段は目にすることができない史跡を興味深げに見入っており、研修できたことに感激していた。

横須賀地域事務所は、「今回の研修を通じて、歴史に埋もれた史跡に関心をもってもらい現在に繋がる防衛意識の涵養に努め、今後も積極的に支援していく」としている。



昭和10年頃の戦艦陸奥



警備所内、砲台跡を見学する参加者



潜水艦探索で使用された聴測所の遺構

中学生の職場体験を支援

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 赤塚3陸佐）は、12月10日（木）及び11日（金）の2日間、横浜市立矢向中学校21名（生徒20名、教諭1名）に対して、「総合的な学習の時間」の一環として、厚木航空基地及び横須賀教育隊における職場体験の支援を行った。

厚木航空基地では、航空管制の見学や地上救難班の放水訓練などを体験し、海上自衛隊航空部隊の日常業務の一端を学ぶことができた。また、第4航空群司令の二川海将補との懇談では、自衛官を志した理由や、今まで一番つらかった出来事など多くの質問が寄せられ、二川司令による冗談を交えながらの分かり易い話に、皆興味津々に聞き入っていた。また、横須賀教育隊での体験喫食では、昨春鶴見区から入隊した同郷の先輩である調理員の大森海士長から、自衛隊の魅力ややりがいなどについて話を聞くことができ、女子生徒からは、「自衛隊で料理人になるのも良いかも」との声もあった。

横浜出張所は、「今後も、学校と密接に連携し、積極的に職場体験を支援することで自衛隊の仕事に対する理解を深めていきたい」としている。



厚木基地資料館にて全般説明



女子でもパイロットになれるんだ！



二川海将補との懇談で熱心に聞き入る生徒達



体験喫食



大森先輩の挨拶



さあチャレンジ！